

富山

TOYAMA

富山支局  
〒930-0094  
富山市安住町7-18

# エコ燃料 南砺で供給実験

## エマルジョン



実証試験中のエマルジョン燃料の供給装置を点検する古渡会長（10日、南砺市の福光温泉で）

水と重油などの燃料を混合して燃焼効率を上げた「エマルジョン燃料」をボイラーに供給する装置の実証実験が、南砺市の温泉施設で行われている。県内で初めての試験。装置は燃料生成のための添加剤が不要で、燃料費も大幅な軽減が期待できるという。3か月程度運用し、実際の燃費効率や環境に配慮した技術を検証する。

装置を開発、実験するのは茨城県牛久市の環境技術企業「環境技研」（古渡周作会長）。装置は直径10センチ、高さ12センチの円筒形の燃料生成装置と、生成した燃料をためるタンク、燃料をボイラーに供給するポンプ。既製品の全ボイラーに取り付け可能で、燃料使用量を約10〜20%抑えられるうえ、燃焼効率が良い。同社は4月に商品化する予定だ。古渡会長によると、従来はエマルジョン燃料生成装置の設置は、水と油が分離しないように乳化剤などの添加剤を使用する必要があり、燃料生成コストが高く、燃料が水と油に分離しやすいなどの欠点があった。そこで同社は、燃料生成装置内で均一に圧力をかけながらかくはんすることで、添加物を使用せずにエマルジョン状態を作り出し、水と油を分離しにくくすることに成功した。約15年かけて開発し、昨年12月には燃料生成装置の特許を取

取得。設置費用は数十万円と、通常のエマルジョン燃料生成装置の10分の1程度に抑えられるとしている。南砺市での実験は10日から福光温泉のボイラーに供給装置を設置して始めた。北海道むかわ町では、花の栽培農家「タムラ花園」が1月末から、ビニールハウス栽培に使うボイラーに取り付けている。経営者の田村仁嗣さん(55)は「重油に水を約12%混ぜても、熱量が変わらない」と話す。同装置の県内代理店は、高岡市の「日本エマルジョンシステム」（0766・30・2131）。

### ご注意

過去に当社が原情報を著作した新聞・雑誌等の記事は、画面上の閲覧のみが可能です。これら記事は過去に公開されたものですが、現状で利用する際には著作権等が発生する場合があります。利用をご検討の方は当社にご相談願います。

日本環境保全株式会社